

平成 18 年度 春期

ソフトウェア開発技術者  
午後 I 問題

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開いて中を見てはいけません。
2. この注意事項は、問題冊子の裏表紙に続きます。問題冊子を裏返して必ず読んでください。
3. 答案用紙への受験番号などの記入は、試験開始の合図があってから始めてください。
4. 試験時間は、次の表のとおりです。

試験時間	13:00 ~ 15:00 (2時間)
------	---------------------

途中で退出する場合には、手を挙げて監督員に合図し、答案用紙が回収されてから静かに退出してください。

退出可能時間	13:40 ~ 14:50
--------	---------------

5. 問題は、次の表に従って解答してください。

問題番号	問 1 ~ 問 6
------	-----------

選択方法	必須
------	----

6. 問題に関する質問にはお答えできません。文意どおり解釈してください。
7. 問題冊子の余白などは、適宜利用して構いません。
8. 電卓は、使用できません。

注意事項は問題冊子の裏表紙に続きます。  
こちら側から裏返して、必ず読んでください。

問1 IPアドレスとルーティングに関する次の記述を読んで、設問1～4に答えよ。

複数のホスト上で動作しているプログラムの間で送受信されるアプリケーションのデータは、IP パケットによって送信元ホストから送信先ホストまで転送される。IP パケットは、送信先ホストの IP アドレスや送信元ホストの IP アドレスが書かれたヘッダ部と、アプリケーションのデータが格納されたデータ部からなる。

IP パケットに含まれる送信先ホストの IP アドレスは、ネットワーク内のホストやルータに設定されたルーティングテーブルの IP アドレスのネットワークアドレス部と比較され、転送先のルータが決定される。この動作が順次繰り返されて、最終的に送信先ホストに送信される。

IP パケットの転送においては、システムごとに IP パケットの生存時間が決められている。生存時間は、IP パケットがルータを一つ通過するごとに一つずつ減らされる。生存時間が0になると、IP パケットが破棄され、送信元に  を通知する。これは、ルーティングテーブルの不具合によって、IP パケットの転送が  してしまうことを防止するためである。

S 社では、次の図に示すネットワーク構成の社内 LAN を新たに構築することにした。

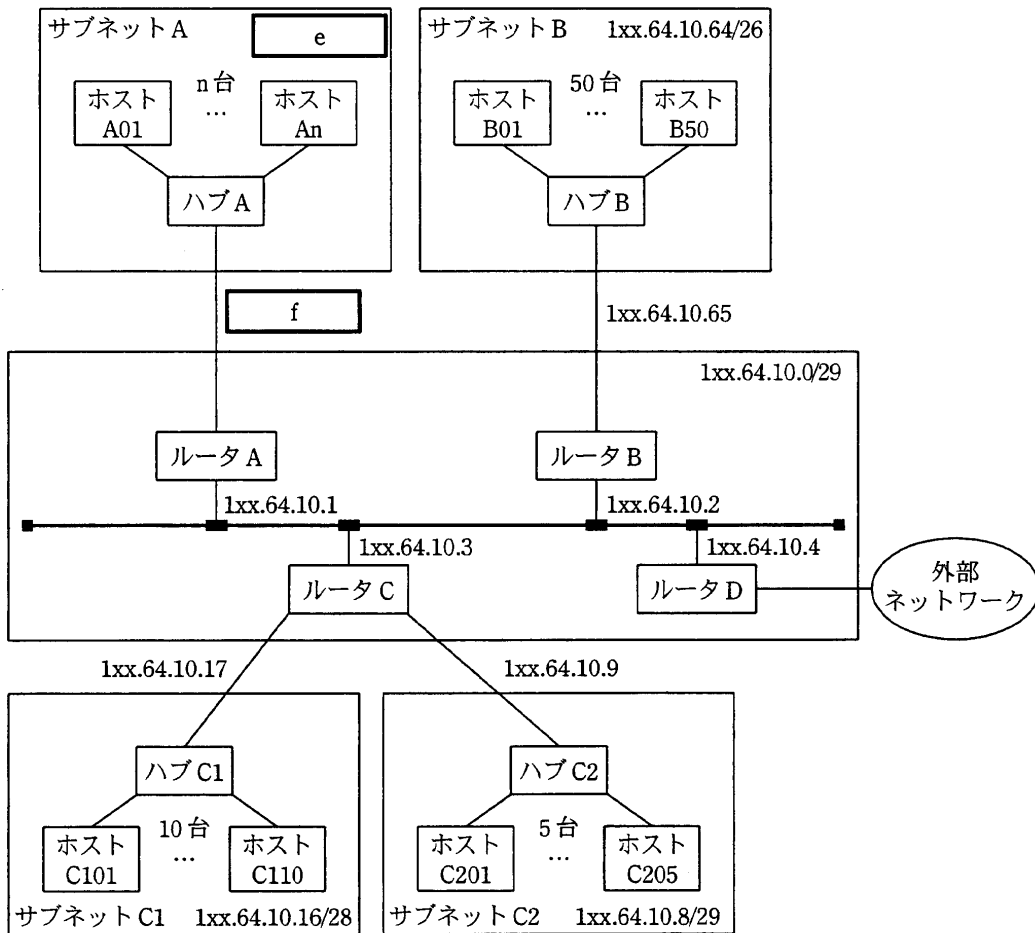


図 ネットワーク構成

S社の社内LANには、IPアドレス 1xx.64.10.0/25 が割り振られている。この場合のサブネットマスクは 255.255.255.128 であり、ネットワークアドレスは 、ブロードキャストアドレスは  である。

[S社の社内LANのサブネットにおけるIPアドレスの付与基準]

- (1) 最も若いアドレスは、サブネットアドレスである。
- (2) サブネットアドレスの次に若いアドレスは、ルータに割り振る。
- (3) ホストの番号の順に残りのアドレスを割り振る。
- (4) ホストアドレス部のすべてのビットが1のアドレスは、ホストのアドレスとして使用しない。

S 社のシステム管理者が、図の社内 LAN のルータ A～C に対応したルーティングテーブルを次の表 1～3 に示すように設定した。

表 1 ルータ A のルーティングテーブル

IP アドレス	転送先
1xx.64.10.8/29	1xx.64.10.3
<input type="text" value="g"/>	1xx.64.10.3
1xx.64.10.0/29	1xx.64.10.1
1xx.64.10.32/27	1xx.64.10.33
1xx.64.10.64/26	1xx.64.10.2
0.0.0.0/0	1xx.64.10.4

表 2 ルータ B のルーティングテーブル

IP アドレス	転送先
1xx.64.10.8/29	1xx.64.10.3
<input type="text" value="g"/>	1xx.64.10.3
1xx.64.10.0/29	1xx.64.10.2
1xx.64.10.32/27	1xx.64.10.1
1xx.64.10.64/26	1xx.64.10.65
0.0.0.0/0	1xx.64.10.4

表 3 ルータ C のルーティングテーブル

IP アドレス	転送先
1xx.64.10.8/29	1xx.64.10.9
1xx.64.10.16/28	<input type="text" value="h"/>
1xx.64.10.0/29	1xx.64.10.3
1xx.64.10.32/27	1xx.64.10.1
1xx.64.10.64/26	1xx.64.10.2
0.0.0.0/0	1xx.64.10.4

設問 1  ,  に入れる適切な字句を、それぞれ 3 字以内で答えよ。

設問 2  ,  に入れる適切な値を答えよ。

設問 3 表 1～3 を参考にして、図中の  ,  に入れる適切な IP アドレスを答えよ。また、図中の n (サブネット A のホスト台数) の最大値を求めよ。

設問 4 表 1～3 中の  ,  に入れる適切な IP アドレスを答えよ。

問2 制御パステストに関する次の記述を読んで、設問1～3に答えよ。

ソフトウェア開発会社のA社は、ホワイトボックステストの一つである制御パステストでプログラムを検証することにした。

制御パステストには、すべての命令を最低1回実行するテストである命令網羅（C0網羅）、すべての条件分岐の真と偽の両方を最低1回テストする分岐網羅（C1網羅）、分岐条件の真と偽のすべての組合せを少なくとも1回テストする条件網羅（C2網羅）などがある。

C2網羅は、プログラムの開始から終了までの経路に注目したテストである。経路は、プログラムをフローグラフに置き換えることで、フローグラフから求めることができる。

フローグラフは、プログラムを連続した逐次命令群と、whileやifなどの分岐命令に分け、それぞれをノードとし、処理の順にノードとノードを有向線分（エッジ）で結んだものである。

分岐命令には、AND、ORなどを用いない一つだけの条件で、真又は偽に分岐する単独分岐と、単独分岐をAND、ORなどで組み合わせた複合分岐がある。複合分岐は単独分岐に分解してからフローグラフに置き換える。

図1のプログラムをフローグラフで表すと、図2になる。フローグラフのノード番号①～⑩は、図1のプログラム中の①～⑩に対応する。①、③、④、⑥、⑦は単独分岐を、②、⑤、⑧、⑨、⑩は連続する逐次命令群を表すノードである。ノード⑪は、出口を表すただ一つの特別なノードである。

C2網羅の一つの経路とは、フローグラフの開始から、同一のエッジを複数回通過しないで出口に達するノードの列である。例えば、①、②、③、⑤、⑩、①、⑪は経路として扱うが、①、②、③、⑤、⑩、①、②、…のように、①から②へのエッジを複数回通過するものは経路として扱わない。

フローグラフから得られるすべての経路の数を、サイクロマチック数という。サイクロマチック数Sは、フローグラフのエッジ数Eとノード数Nから、次のように求めることができる。

$$S = E - N + 2$$

```

While (①(a=1)) {
    ②
    If (③(b=2) or ④(b=3)) {
        ⑤
    }
    Else {
        If (⑥(c>0) and ⑦(c<8)) {
            ⑧
        }
        Else {
            ⑨
            Break;
        }
    }
    ⑩
}

```

注 Break を実行すると、while の繰返しを終了する。

図1 プログラム

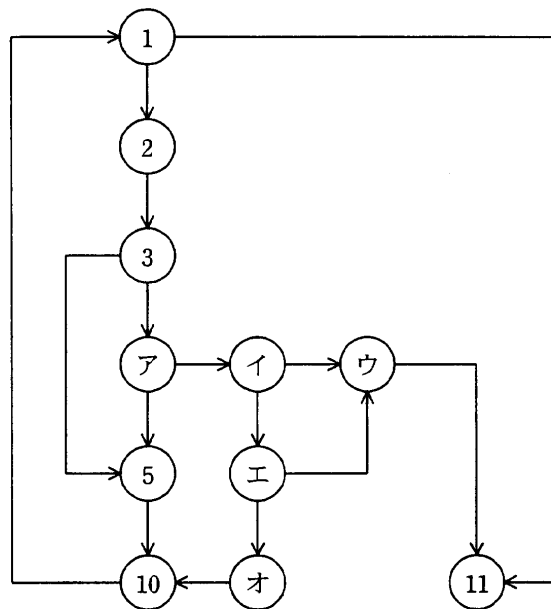


図2 フローグラフ

設問1 図2のフローグラフ中の(ア)～(オ)に入れる適切なノード番号を答えよ。

設問2 図2のフローグラフのサイクロマチック数を答えよ。

設問3 図1のプログラムに対して、“①が真, ③が偽, ④が偽, ⑥が偽, ⑦が真”  
となるようなテストケースを実行するために必要な, 変数 a, b 及び c の設定値を,  
考えられる最も大きな値で答えよ。

ここで, 変数 a, b 及び c は, 16 ビットで表された 2 の補数の整数型変数である。  
これらの変数を, ②で変更することはない。

問3 ICカードを使った、社員の入退室管理システムに関する次の記述を読んで、設問1～3に答えよ。

多数の個人情報を取り扱っているT社では、各社員に社員ID（公開データ）や認証用の暗号化鍵を書き込んだICカードを配付し、事務室や機器室の入退室管理を行うシステム（以下、本システムという）を構築することになった。本システムは、サーバ及び各部屋の出入口に設置された端末から構成され、これらの機器は専用のネットワークで接続される。端末はカードリーダーを備え、挿入されたICカードの認証を行って出入口の施錠及び解錠の制御を行い、正規のICカードをもつ社員だけを入退室可能とする。

セキュリティ強度のほか、利便性やコストも考慮して、本システムではCPUとメモリをもつICカードを使用する。ICカードが正しいことを確認するために、次のような認証方式（図）の採用を検討することにした。

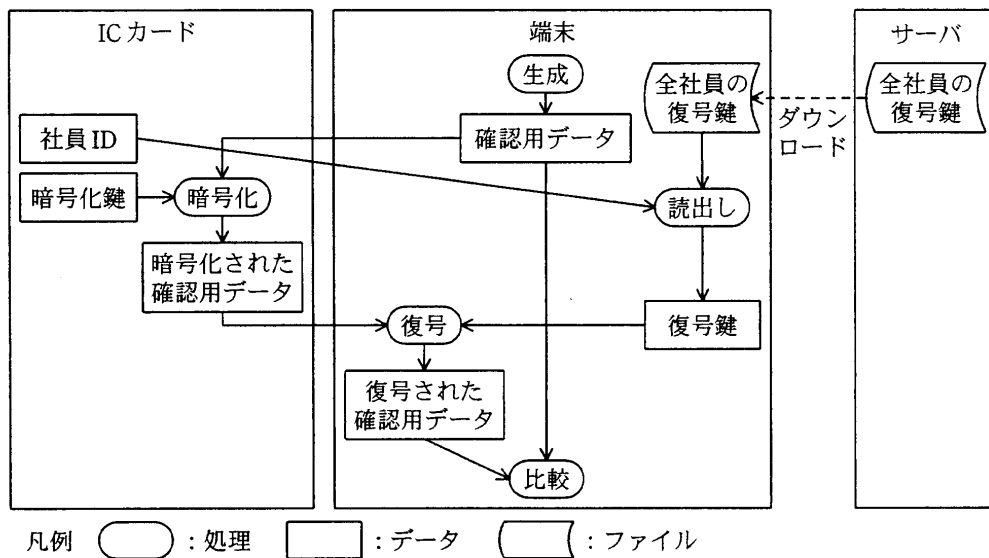


図 ICカードの認証方式

端末は、ICカードが挿入されると、適切な確認用データを生成してICカードに入力する。ICカードは、書き込まれている暗号化鍵を使って確認用データを暗号化し、社員IDとともに出力する。端末は、暗号化された確認用データを当該社員用の復号鍵で復号して、元の確認用データと比較し、両者が一致すれば、挿入されたICカードが正しいことを認証する。

社員ID及び認証に必要なデータはサーバで設定や保管を行うが、サーバやネットワ



ークの障害時でも端末単独で入退室を可能にするために、それらのデータは端末にダウンロードしておく。

暗号化鍵は、IC カードの耐タンパ性（内部の情報を不正に読み書きすることを困難にする特性）をもつメモリに格納し、IC カードの外には出さない。したがって、たとえ IC カードのハードウェアの作成は可能であっても、IC カードを不正に発行することは困難である。

認証に使用する暗号方式に関して、次の4種類について検討した。

- ① 共用の共通鍵を用いる暗号方式  
共通鍵暗号方式を採用し、全社員で同じ共通鍵を共用する。
- ② 個別の共通鍵を用いる暗号方式  
共通鍵暗号方式を採用し、各社員に個別の共通鍵を割り当てる。
- ③ 公開鍵暗号方式  
公開鍵暗号方式を採用し、暗号化に秘密鍵、復号に公開鍵を使う。各社員に個別の一对の秘密鍵と公開鍵を割り当てる。
- ④ 公開鍵暗号+認証局方式  
方式③の公開鍵暗号方式に加え、認証局（以下、CA という）を設置し、社員 ID 及び公開鍵を含む情報に CA の秘密鍵でデジタル署名した公開鍵証明書を、各社員に対して発行する。各社員の公開鍵はサーバや端末へ配付せずに、端末では認証の都度、公開鍵と公開鍵証明書を IC カードから読み出し、その正当性を CA の公開鍵を使って確認した上で使用する。

なお、IC カードの紛失時又は盗難時に、鍵を変えて IC カードを再発行する場合には、以前発行した公開鍵証明書を無効にする証明書失効リスト（以下、CRL という）を作成する。

これらの各方式について、IC カード、端末、サーバ及び CA の各装置でもつ必要がある認証用データを、表 1 に示す。

表 1 各装置でもつ必要がある認証用データ

方式	IC カード	端末, サーバ	CA
① 共用の共通鍵を用いる暗号方式	共用の共通鍵	共用の共通鍵	—
② 個別の共通鍵を用いる暗号方式	当人の共通鍵	<input type="text" value="a"/>	—
③ 公開鍵暗号方式	当人の秘密鍵	<input type="text" value="b"/>	—
④ 公開鍵暗号+CA 方式	当人の秘密鍵 当人の公開鍵 当人の公開鍵証明書	<input type="text" value="c"/> CRL	<input type="text" value="d"/> CA の公開鍵 公開鍵証明書発行・廃棄履歴 CRL

各方式について、各装置（1 台又は 1 枚）でもつ認証用データが漏えいした場合に、IC カードを不正に発行されるおそれがある社員の範囲を表 2 に示す。

なお、IC カードのハードウェアが作成されるおそれはあるものとする。

表 2 各装置でもつ認証用データが漏えいした場合に、IC カードを不正に発行されるおそれがある社員の範囲

方式	IC カード	端末, サーバ	CA
① 共用の共通鍵を用いる暗号方式	<input type="text" value="e"/>	全員	—
② 個別の共通鍵を用いる暗号方式	当人だけ	<input type="text" value="f"/>	—
③ 公開鍵暗号方式	当人だけ	<input type="text" value="g"/>	—
④ 公開鍵暗号+CA 方式	当人だけ	<input type="text" value="h"/>	<input type="text" value="i"/>

設問 1 表 1 中の  ~  に入れる適切な字句を解答群の中から選び、記号で答えよ。

解答群

- |             |           |
|-------------|-----------|
| ア CA の公開鍵   | イ CA の秘密鍵 |
| ウ 全員の共通鍵    | エ 全員の公開鍵  |
| オ 全員の公開鍵証明書 | カ 全員の秘密鍵  |
| キ 当人の共通鍵    | ク 当人の公開鍵  |
| ケ 当人の公開鍵証明書 | コ 当人の秘密鍵  |



問4 バッチジョブ処理時間の評価に関する次の記述を読んで、設問1、2に答えよ。

X社の営業分析システムは、バッチ処理が主体であり、毎日午前2時に処理を開始し、午前5時半までにすべての処理を終了しなければならない。すべての処理が終了すると、営業部のPCから営業分析情報を参照することができる。X社の情報システム部に所属するY氏は、営業分析システムのバッチジョブ群Z1の稼働状況を調査した。図1にZ1のジョブチャートを、表にZ1の処理概要と処理時間をそれぞれ示す。

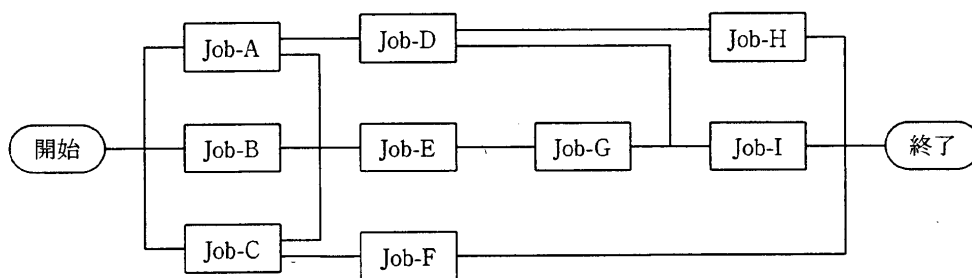


図1 Z1のジョブチャート

表 Z1の処理概要と処理時間

ジョブ名称	処理概要	処理時間(分)	ジョブ名称	処理概要	処理時間(分)
Job-A	販売情報取得	30	Job-F	商品在庫分析	75
Job-B	顧客情報取得	35	Job-G	営業分析	60
Job-C	商品情報取得	25	Job-H	財務分析	65
Job-D	売上・コスト分析	85	Job-I	レポート作成	50
Job-E	一次集計分析	30			

[Z1の処理条件]

- ・毎日午前2時に処理を開始する。
- ・各ジョブは、図1の“開始”から“終了”の方向へ順次処理される。
- ・各ジョブは、先行ジョブのすべてが終了した時点で開始できる。
- ・図1の処理順序を保証した上で、複数ジョブの並行処理が可能である。
- ・ジョブ間の待ち時間はない。
- ・CPU、メモリ、ディスク装置などのシステム資源に不足はない。

その後、営業部の強い要望によって、新たな機能として、毎日の売上ランキングを提供することになった。Y氏はこの機能を実現するために、Z1のJob-D及びJob-Gの後続ジョブとして、新たにランキング分析ジョブJob-Jを追加し、このジョブ群をZ2とした。図2にZ2のジョブチャートを示す。

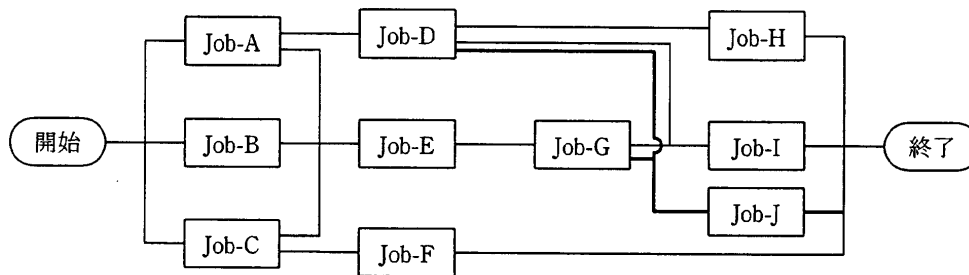


図2 Z2のジョブチャート

[Z2の処理条件]

- ・Job-Jにおいて、データ1件当たりの処理時間を0.1秒とする。
- ・そのほかは、[Z1の処理条件]と同一とする。

さらに、毎月末日に過去半年分の月間売上ランキングを提供するために、Job-Jは過去5か月分の集計済売上上位データを併せて読み込んで処理する必要があった。このままではJob-Jによって全体処理時間が長くなりすぎ、月末日の処理が遅れてしまうことは明らかであった。そこでY氏は、処理時間短縮策として、Job-Jのジョブ分割を検討した。図3に、Job-J分割後のJob-JJのジョブ構成を示す。

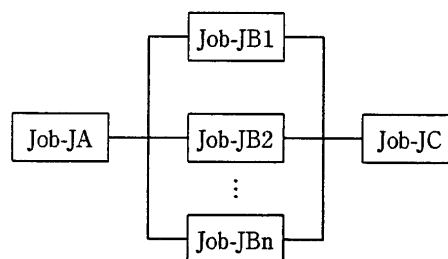


図3 Job-JJのジョブ構成

[Job-JJ のジョブ分割条件及び処理時間算出条件]

- ・Job-JBk ( $k:1 \sim n$ ) の  $n$  は、ジョブ分割数を表す。
- ・Job-JJ は、“Job-JA → Job-JBk → Job-JC” の順に待ち時間なく処理される。
- ・分割後の各ジョブ “Job-JBk” のデータ処理件数は均等とする。前処理 Job-JA が終了した後、同時に開始し、同時に終了する。
- ・Job-JBk において、データ 1 件当たりの処理時間を 0.1 秒とする。
- ・Job-JA と Job-JC の合計処理時間は、“ジョブ分割数 ( $n$ ) × 5” 分とする。
- ・CPU, メモリ, ディスク装置などのシステム資源に不足はない。

設問 1 次の記述中の  ,  に入れる適切な字句を答えよ。

なお,  については, 次の (例) にならい, “Job-X” (ジョブ名称, X は A ~ I) と “→” を用いて答えよ。

(例) Job-A → Job-B → Job-C → ...

[Z1 の処理時間]

各ジョブの処理時間を表のとおりとすると, Z1 のクリティカルパスは

であり, Z1 のすべてのジョブが終了するには,  分かかる。

設問 2 次の記述中の  ~  に入れる適切な字句を答えよ。

[Z2 の処理時間]

月中日における Job-J のデータ処理件数を 36,000 件とすると, Job-J の処理時間は,  分である。

また, 月末日における Job-J のデータ処理件数を 216,000 件 (月中日の 6 倍) とすると, Z2 が午前 5 時半までに終了するためには, Job-JJ の本処理部分 (Job-JBk) を  本又は  本にジョブ分割すればよい。このときの Z2 の処理時間は, どちらも  分である。

なお, Job-JJ 以外の処理時間は, 表のとおりとする。

問5 グラフの最短経路に関する次の記述を読んで、設問1～3に答えよ。

都市間を道路で移動するときの最短の移動経路を求める問題は、それぞれの都市をグラフのノード、都市間の道路をグラフのエッジ、あるノードから別のノードへエッジやノードを通して移動する道筋（パス）を経路と考えることで、グラフの問題として解くことができる。つまり、グラフ  $G$  において、ノード間のエッジと距離が与えられているとして、二つのノード間を最も短い距離で移動する経路（最短経路）を求める問題として考えればよい。

グラフ  $G$  の例を図1に示す。 $G$  は  $A \sim E$  の五つのノードと、ノード間を結ぶエッジからなる。各エッジには移動可能な方向と距離が決められている。図1では、ノード間で移動可能な方向を矢印で、距離（0より大きい）を矢印に添えた数字で示している。

なお、二つのノード間にエッジがない場合は、ノード間を直接移動できないことを示している。

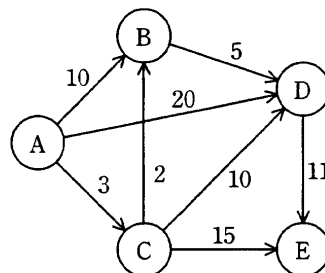


図1 グラフ  $G$  の例

ここで、 $G$  内に一つの始点ノードを定め、始点ノードから各ノードまでの最短経路での移動距離（以下、最短距離という）を求めることを考える。ただし、すべてのノードは始点ノードから到達可能であるとする。最短距離を求めるアルゴリズムの一つとして、ダイクストラのアルゴリズムが知られている。このアルゴリズムは、始点ノードからの最短距離を、始点ノードの周辺のノードから一つずつ順番に確定し、確定しているノードの範囲を徐々に拡大していきながら、最終的にすべてのノードまでの最短距離を求めていく。ダイクストラのアルゴリズムの手順を①～④に示す。

- ① 始点ノードからの最短距離が確定しているノードの集合を V，未確定のノードの集合を U とする。初期状態では，すべてのノードが U に属している。また，ノードごとに始点ノードからの距離（以下，ノードの距離という）をもたせる。ノードの距離は初期値として十分に大きな値をもつ。
- ② 始点ノードの距離を 0 とする。
- ③ U に属するノードの中で，ノードの距離が最も小さいノードを探し，そのノードを n とする。その時点でのノード n の距離を n の最短距離として確定し，ノード n を U から V へ移す。このとき，U に属するほかのノードについて距離を更新する。U に属するノードの中で，n からエッジがあるノード（k とする）すべてについて距離の更新を行い，ノード k の距離を，その時点までの k の距離と，n の距離と n から k へのエッジの距離の和を比較して，小さい方の値に置き換える。
- ④ U に属するノードが全部 V へ移されるまで，③ の操作を繰り返す。

ここで，図 1 のグラフ G の例において，始点ノードを A として，①～④ で説明した手順によって，各ノードまでの最短距離を順次求めることを考える。表 1 は，U から V へノードが移され，各ノードまでの距離が更新された時点での各ノードの距離を示した進行表である。

なお，M は ① の初期値を表す。

表 1 ダイクストラのアルゴリズムの進行表

U から V へ移されるノード	A	B	C	D	E
(初期状態)	0	M	M	M	M
A	0	10	3	20	M
a					
b					
D	0	5	3	10	18
E	0	5	3	10	18



①～④で示したダイクストラのアルゴリズムを実現するために、表2に示す定数、配列（配列の添字は1から始まる）及び変数を使用することにした。

表2 使用する定数，配列，変数

定数名／配列名／変数名	定数の意味／保持するデータ内容
N_NODE	最大のノード数
MAX_VALUE	ノード間の距離の総和よりも十分に大きな値
VISITED, UNVISITED	ノードの状態
distance[N_NODE]	ノードごとに始点ノードからの距離を保持する配列で，初期値はMAX_VALUE
status[N_NODE]	ノードごとの状態（VISITED又はUNVISITED）を保持する配列で，初期値はUNVISITED
w[N_NODE,N_NODE]	ノード間の直接の経路の距離をもつ二次元配列で，ノードiからノードjへの距離はw[i,j]となる。ノード間に経路がない場合，該当する要素の値はMAX_VALUEとする。
start	始点ノードの番号
datasize	グラフのノード数



設問1 表1中の  ,  に入れる適切な字句を答えよ。

設問2 図2中の  ~  に入れる適切な字句を答えよ。

設問3 図2のアルゴリズムでは、各ノードの始点ノードからの最短距離は求まるが、どのノードを通過してきたかという経路は示せない。そこで、最短距離で移動するときの経路を示すために、配列 `previous[N_NODE]` を導入する。この配列には、最短経路をたどるとき、各ノードに至る経路の最後のエッジがどのノードから来たかを、ノードごとに保持する。

(1) 最短経路を記録するためには、図2のどこに配列 `previous` の要素への代入式を挿入すればよいか。挿入する場所を図2中の(ア)～(エ)の中から選べ。また、挿入する代入式を答えよ。

(2) 始点ノードから各ノードに至る最短経路を表示するアルゴリズムを、図3に示す。図3は、図2のアルゴリズムに(1)の修正を加えて実行した後に実行される。図3中の  ~  に入れる適切な字句を答えよ。

なお、スタックを操作する関数 `push` , `pop` は、最短経路を表示するアルゴリズム内で使用される関数である。また、図3中で使用する配列、変数及び定数を、表3に示す。

表3 図3のアルゴリズムで使用する配列、変数、定数

配列名/変数名/定数名	保持するデータ内容/定数の意味
<code>route[N_NODE]</code>	最短経路中のノード番号を保持する配列で、スタックとして使用する。
<code>top</code>	配列 <code>route</code> をスタックとして使用する場合に、スタックトップの位置を示す。初期値は0とする。
<code>NULL</code>	スタックが空であることを示す定数

```

for (i を 1 から datasize まで 1 ずつ増やす)
  push(i)
  j ← i
  while (j が start でない)
    j ← previous[j]
    f
  endwhile
  j ← pop( )
  while (j が NULL でない)
    j を表示する
    g
  endwhile
  改行を表示する
endfor

function push(x)
  if (top が N_NODE より小さい)
    top ← top+1
    h
  endif
endfunction

function pop( )
  if (top が 0 より大きい)
    i
    route[top+1] を戻り値として戻る
  else
    NULL を戻り値として戻る
  endif
endfunction

```

図3 最短経路を表示するアルゴリズム

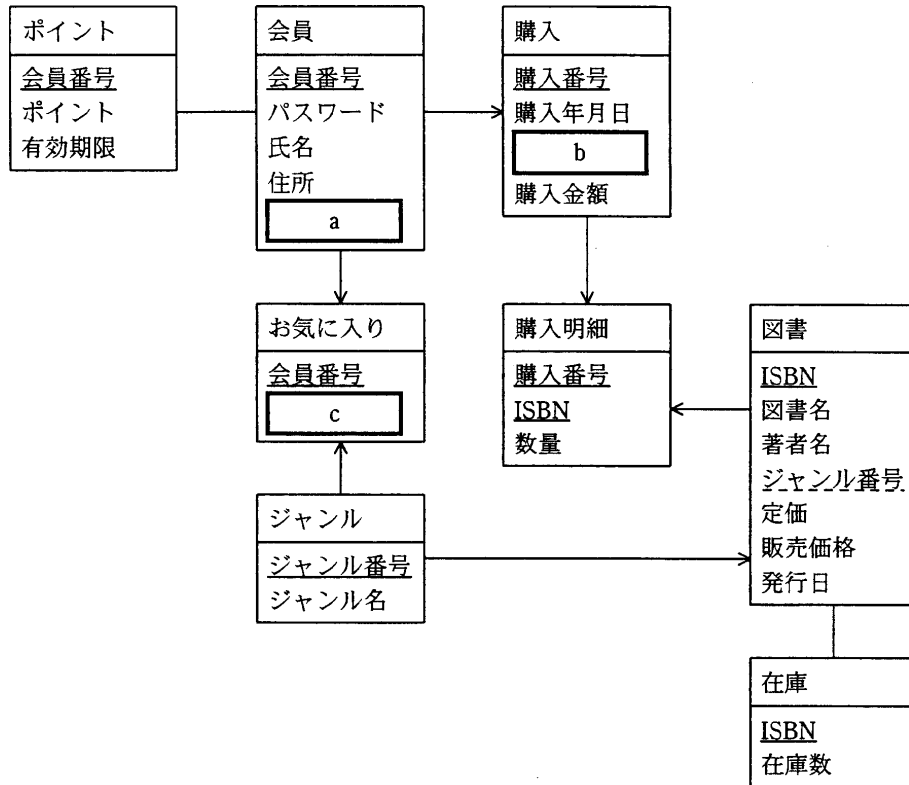
問6 インターネット図書販売システムに関する次の記述を読んで、設問 1～4 に答えよ。

M 社は、インターネット上で図書を販売するシステム（以下、本システムという）を構築することになった。本システムの構築目的は、インターネットに接続している不特定多数の消費者に対して、個人の興味・好みに合わせた図書の推薦やポイントサービスを行って、売上の向上を図ることである。

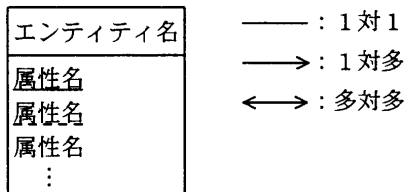
〔本システムの概要〕

- ・本システムを利用するには、会員登録を行う必要がある。会員登録を行う際には、パスワード、氏名、住所、メールアドレスを入力する。  
なお、会員番号は本システムが自動的に採番する。また、パスワード、メールアドレスの入力は必須とする。
- ・本システムに会員登録を行った利用者（以下、会員という）は、会員番号、パスワードを入力して本システムにログインすることで、本システムのサービスを受けることが可能になる。
- ・会員は興味のあるジャンルをお気に入りとして登録することで、本システムから興味のあるジャンルの推薦図書情報を受け取ることが可能になる。興味のあるジャンルは、複数登録することができる。
- ・会員が図書を購入した際には、その履歴として購入番号、購入年月日、会員番号、購入金額を本システムが記録する。また、その明細として ISBN と数量を記録する。  
なお、購入番号は本システムが自動的に採番する。
- ・図書ごとに在庫数を管理する。
- ・図書の購入金額（円）の1%がポイントとして会員に付与される。
- ・付与されたポイントは、会員が図書購入時に1ポイント1円として使用することができる。
- ・累積したポイントの有効期限は、最後に図書を購入した日の1年後とする。

本システムのE-R図を図1に示す。



凡例



注 属性名の実線の下線\_\_\_\_\_は主キー, 破線の下線\_\_\_\_\_は外部キーを示す。  
主キーの実線が付いている属性名には, 外部キーの破線を付けない。

図1 本システムのE-R図

本システムでは, E-R図のエンティティ名を表名, 属性名を列名にして, 適切なデータ型で表定義した関係データベースによって, データを管理することにする。

設問1 図1のE-R図中の  ~  に入れる適切な属性名を答えよ。  
主キーの場合は実線の下線を, 外部キーの場合は破線の下線を引いて示せ。

設問2 表定義について, (1), (2)に答えよ。

(1) 会員テーブルを定義する次のSQL文中の ,  に入れる適切な字句を答えよ。

なお,  には図1中の  と同一のものが入る。

```
CREATE TABLE 会員
(会員番号 CHAR(9) ,
パスワード CHAR(15) ,
氏名 VARCHAR(20),
住所 VARCHAR(60),
 VARCHAR(30) )
```

(2) 図書テーブルを定義する次のSQL文中の  ~  に入れる適切な字句を答えよ。

なお, 列名以外の列定義は省略しており,  には(1)のSQL文中の  と同一のものが入る。

```
CREATE TABLE 図書
(ISBN, 図書名, 著者名, ジャンル番号, 定価, 販売価格, 発行日,
 (),
FOREIGN KEY () REFERENCES )
```

設問3 本システムの図書購入処理におけるデータの整合性確保に関する次の記述中の  ,  に入れる適切な記号を、図2中のア～クの中から選べ。

本システムにおいて、会員が図書を購入するには、購入したい図書の情報を確認した後、図書の送り先の情報を確認し、購入指示を出す。会員が本システムへ図書の購入を指示すると、図2に示す一連の処理が実行される。この処理において、データの不整合を回避するために、DBMSのトランザクション機能を利用する場合、設定すべき最も狭いトランザクション範囲は、 ～  になる。

なお、図書購入処理中に、図書の属性情報が変更されることはないものとする。

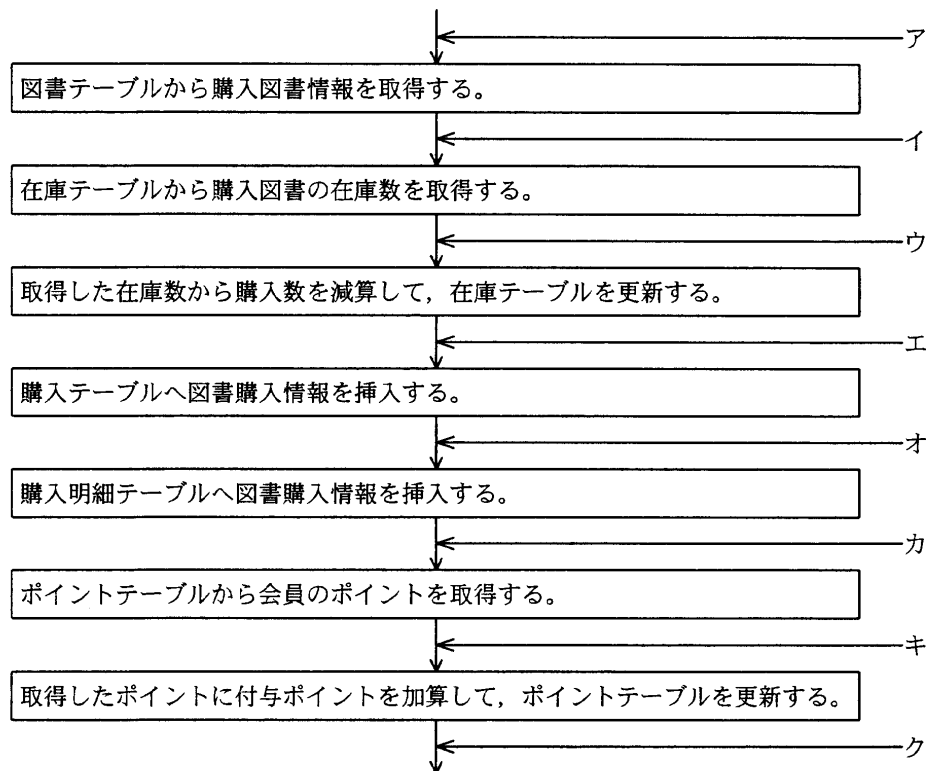


図2 図書購入処理



設問4 本システムへログインした会員が、お気に入りとして登録しているジャンルの中で、先月の初日以降に発行され、在庫があり、その会員がまだ購入していない図書を抽出する SQL 文を次に示す。SQL 文中の  ~  に入れる適切な字句又は式を答えよ。ただし、“:先月初日”、“:会員番号”は、それぞれ先月の初日、ログインした会員の会員番号を表すホスト変数である。

なお、列を表す場合、表名を省略してはならない。

```
SELECT 図書.ISBN, 図書.図書名
FROM 図書, 在庫
WHERE 
      AND 図書.発行日 >= :先月初日
      AND 在庫.在庫数 > 0
      AND 図書.ジャンル番号 IN
      (SELECT 
       FROM お気に入り
       WHERE  )
      AND 
      (SELECT 購入明細.ISBN
       FROM 購入, 購入明細
       WHERE 購入.購入番号 = 購入明細.購入番号
            AND 購入.会員番号 = :会員番号)
```

〔メモ用紙〕

〔メモ用紙〕

9. 答案用紙の記入に当たっては、次の指示に従ってください。
- (1) HB の黒鉛筆又はシャープペンシルを使用してください。
  - (2) 受験番号欄に、受験番号を記入してください。正しく記入されていない場合は、採点されません。
  - (3) 生年月日欄に、受験票に印字されているとおりの生年月日を記入してください。正しく記入されていない場合は、採点されないことがあります。
  - (4) 解答は、問題番号ごとに指定された枠内に記入してください。
  - (5) 解答は、丁寧な字ではっきりと書いてください。読みにくい場合は、減点の対象になります。
10. 試験終了後、この問題冊子は持ち帰ることができます。
11. 答案用紙は、白紙であっても提出してください。
12. 試験時間中にトイレへ行きたくなったり、気分が悪くなったりした場合は、手を挙げて監督員に合図してください。
13. 午後Ⅱの試験開始は 15:30 ですので、15:20 までに着席してください。

試験問題に記載されている会社名又は製品名は、それぞれ各社の商標又は登録商標です。  
なお、試験問題では、® 及び ™ を明記していません。